

## 「全鍍連」 2017年9月号 理事長のよこがお

山梨メッキ工業組合 理事長 佐野 晶仁 (有)佐野鍍金工業所 代表取締役)

「ふと、気が付くと世代交代」



山梨県鍍金工業組合の新理事長となりました佐野です。大役を仰せつかり誠に恐縮ですが、組合と全鍍連の発展に少しでも協力できるよう尽力いたす所存です。宜しくお願い申し上げます。

振り返ること 28 年前、父である先代の社長に「今年からお前が鍍金組合に出席するように！」と言われ、「山梨県内の鍍金業社の社長の集まりだからスーツにネクタイ、失礼のないように！」と付け加えられ、何もわからないまま組合に出席をしたときには、自分の祖父のような年代の社長さんが大半を占めるような場所で、話しの内容も理解不能なまま、ただただ、この席に座っている自分が場違いである！と思っていたことを、ついこの間のように感じます。

しばらくの後に、父が病気を患い、会社に出てくることが少なくなりました。現場で指の揮をとることになり、事務所での仕事も増えてきた頃には、あれほど意味不明だと思っていた鍍金組合での話についていけるようになりました。ちょうどその頃、全鍍連の環境委員と技術委員を兼任してくれていた組合員さんが脱退をすることとなり、ご指名で「環境と技術はお前が行け！」という話になり、やっと会話の内容についていけるようになったばかりの自称「若手」が全鍍連の会議に出席することになりました。

今度はなんとなく話についていけるでは済まされません。全鍍連の会議に出席したら山梨の組合員全員にその内容を伝えなければなりません。細かくメモを取り、組合員からの質問に答えられるよう準備をしても、前理事長の田代さんや先輩方に助けていただく見当違いを何度も繰り返してしまいました。自称「若手」は後ろをついていくのではなく、先頭に立ち、引っ張っていかなければならない立場だと実感しました。

この辺りまでで、振り返った 28 年前から 20 年ほど経過しております。先代の社長に言われたことだけを守り、周りの先輩方に迷惑をかけないように過ごしていた数年後に、ふと、周りを見渡すと会社の中でもキャリアが一番長く、従業員の年齢層も私より年上の方が 1 人だけ、いつの間にか社長と呼ばれるようになり、鍍金組合でも、自分の祖父のような年代の方々はいなくなっていました。

いつの間にか、同年代や年下が話の中心部にいることに気が付き「ああ、いつの間にか世代交代が進んでいたのだな」「もう、若手といって甘えてはいられないな」と感じ始めたころ、全鍍連をはじめ、各組合員、山梨以外の各組合などの団体

からも、「世代交代」という言葉をよく聞くようになりました。世代交代が進んでいるのだな、など思っているとそうではなく、自分が世代交代をする立場になったから実感が湧いただけであり、周りでも社長の交代などは多々あったことでした。これに気づき、もう若手ではないのだから今まで以上に気を引き締めていかなければならない！周りの状況を把握しておかないと取り残されてしまう、と思うようになりました。

ふと、気付いたら世代交代ではなく、自覚が足りないから気が付いただけで、世代交代は行われるべくして行われていたの  
でした。

私の半生の反省文のようになってしまいましたが、乱文に最後までお付き合いくださいましてありがとうございました。